

大豆の病害虫防除は適期を逃さず行いましょう！



産米改良協会 採種情報ページ

開花時期を予想しながら計画的な作業を

1 開花期を想定した作業計画

(1) 開花期の判定方法と開花時期の推定

大豆栽培において、中耕培土や防除作業は開花期によって適期がことなりますので正確な時期判定が必要となります。

また、外から見て開花がわかるような状態だと開花期を4日以上すぎていると考えられ、この場合、開花期を見誤り適期防除が出来ない事が想定されます。

については、開花時期を生育の進み具合や花芽分化期から推定するとともに、開花期の正確な判定を行いながら作業計画を立ててください。

(2) 正確な開花期を判断することで得られる利点

- 開花期からの日数を防除の基準とする病害虫に対して、適期防除が可能となる。
- 培土を遅くとも開花の10日前に終了できる作業計画を固めることができる。
 - ① 中耕・培度は原則として、開花の10日前までに終わることで、落花などの影響を抑えられる。
 - ② 紫斑病やカメムシ類等の防除を適期に行うことができる。

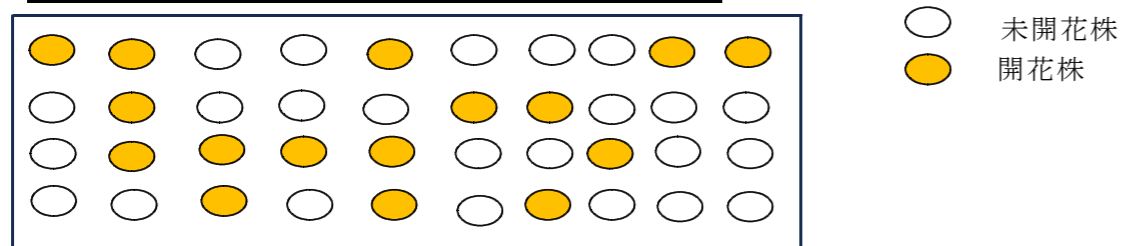
<栽培管理ミニ情報>

開花期の判定方法

大豆開花期の定義 → 「全株数の40～50%が開花始めに達した日」

- 1株当たりでは、1つでも花がみられたものは開花とみなします。
- ほ場では、開花とみなした株が全体の40～50%に達した日を、開花期とします。
 - ・ 下記の図を参考に各株で1つでも開花している株が半数に達した場合を開花期とします。(2粒播きであっても、その株内で一輪でも咲いていたらカウントする。)

イメージ図 (全株数40に対し開花株16=全体の40%)



2 害虫防除 (7月下旬～)

ほ場内を注意深く観察し、発生状況を見極めて適正に防除を行う。

- ウコンノメイガ
多くの株で巻葉がみられ始めた場合に、次の剤により防除する。

薬剤名	施用量	施用時期
プレバソフロアブル5	4,000倍液 150～300ℓ/10a	7月下旬～8月上旬

- アブラムシ類
発生が多くみられる場合、次の剤により防除する。

薬剤名	施用量	施用時期
アディオン乳剤	3,000倍液 150ℓ/10a	7月下旬～8月中旬

3 中耕・培土作業

原則として、開花の10日前までに終わること。これ以降に行うと、落花などの影響が出やすくなるので注意すること。

4 水管理作業

花芽分化期(開花期の7日程度前)から開花後42日までの期間は、高温少雨の場合は収量へ大きく影響を及ぼすので、1か月気象予報を参考に暗渠操作等で地下水位の調整を行ってください。

5 気象情報

- 気象庁の1か月予報(6/29～7/28)によると
 - ・ 期間のはじめは気温がかなり高くなる見込み。
 - ・ 降水量は平年並みか多く、日照時間はほぼ平年並みとなっている。

6 病害虫の発生予察情報

- 秋田県病害虫防除所が6月25日発表した7月の主な病害発生予報は次のとおり。

病害虫名	発生時期	発生量
ウコンノメイガ	平年並 (前年より遅い)	平年並 (前年より少ない)
食葉性鱗翅目幼虫	—	多い (前年より多い)

お知らせ

大豆種子生産技術研修会参加のご案内

— 種子生産者の皆さまへ —

昨年大豆種子生産は計画数量の13%で全量が準種子となり、生産量・品質ともに大幅に低下した年となりました。このため、昨年の反省点を踏まえ、本年の種子生産に万全を期すため、次により研修会を開催しますので生産者の皆さまには多数ご参加のうえ、優良種子の生産にご活用くださるようお願いいたします。

- 1 開催日時 令和6年7月10日(水) 10:30～12:30
- 2 開催場所 秋田県農業試験場 講堂
- 3 研修内容 (1) 開花時期からみた病害虫の適期防除と中耕・培土について
(2) 気象条件に応じた栽培管理について
(3) その他

● 開花期と防除の関係と防除判断は？

● 中耕・培土の時期からみたメリット・デメリットは？

● 薬剤は指定されたもの以外はなぜダメなのか？

～ など、さまざまな疑問に県農業試験場の研究員がお答えします。

次号予定：技術情報は適宜行います。